

南病棟の病棟移転・開院についての病院長ご挨拶

京都大学医学部附属病院 病院長

稲垣 暢也

新病棟（南病棟）が完成し、12月27日（日）に病棟移転を行い、予定通り開院の運びとなりました。

建設中や開院に向けての移転業務に多大なご協力をいただきました各方面の関係者の皆さまならびに周辺の住民の皆さまに厚く御礼申し上げます。

今回完成しました「新病棟（南病棟）」は、糖尿病や脳卒中、腎臓病、歯周病などの生活習慣病をはじめ、眼・耳・鼻・皮膚や神経・骨・関節・筋肉といった感覚器や運動器の病気、さらには膠原病などをかかえる患者さんに対応した病棟となっております。最新の設備を備え、医師や看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士などのさまざまな医療スタッフが連携して患者さんのケアにあたることで、より質の高い療養環境を提供し、患者さんが自らの治療に専念できるだけでなく、患者さんのご家族にも安心していただける施設となっております。

今後、超高齢化を迎え、ますます増加していくことが予想されるこれらの患者さんを受入れ、治療し、地域社会へ復帰していただくために、新病棟が果たすべき役割は大変大きなものと身の引き締まる思いであります。また、新病棟を建設するにあたり、1. 院内に分散している機能の集約及び高機能化、2. 五山の送り火などの景観や周辺環境への配慮、3. 構内整備による開かれた外部空間の創造、など、当院を利用する患者さんだけでなく、住民の皆さまにとりましても快適な病棟となるよう努めてまいりました。さらには、災害時の対応等を想定したヘリポートを屋上に整備し、病院の機能強化を進めたところです。

当院では、今回完成しました「新病棟（南病棟）」をはじめ、高度急性期医療に対応する「第Ⅱ期病棟（中病棟）」、創薬や臨床研究を行う治験病棟である「iPS等臨床試験センター棟」の建設も控えており、これらの病棟が完成した暁にはより一層の医療体制の充実が図られることとなります。こちらにつきましても、引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。